

九月十二日、霧の都ロンドンには珍しい快晴の一日。この日、世界最大のワイン品評会、インターナショナル・ワイン・チャレンジの受賞パーティーが開催され、出席してきました。

計 | 雨 | 晴

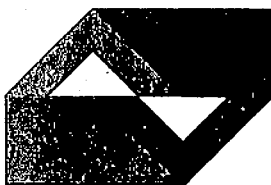
当日の主役は各国でメダルを受賞したワイン、シャンパン、そして日本酒です。私も木箱にうやうやしく鎮座した金メダル受賞酒「真野鶴・万穂」を日本から連れていったの参加です。

午後七時、会場の老舗ホテルに到着。広間には、世界各国から集まったワイン関係者約七百五十人がシャンパン片手にタキシード、ドレス姿で、まるで映画のシーンのようです。日本からは新潟、広島、神戸などの九蔵元、現地の法人関係者を含

万穂、ロンドンに行く

め、二十人。こちらは少し緊張した面持ちで、着慣れぬ羽織袴・着物に身を包んでの登場です。

午後八時、ディナー開始の合図とともに、みな自分のテーブルに着席します。卓上はシャンデリアの光を反射す



す。コース仕立てで進んでいく料理とともに、各地の受賞酒をみながら試していきます。どれも個性的で味わい深く、国際的な舞台に引けを取らない存在を見させています。

実はこの「万穂」の名は、私が十二年前に蔵に戻った時のベテラン杜氏、松井氏のお名前。杜氏が醸す酒同様、稲穂が満ちるような味わい深い響きが大好きで、いつかこの名前を使わせてもらおうと大事に温めていたものでした。

今回、その名を付けた酒が見事に金メダルを受賞。世界各国のワイン関係者に囲まれて、「万穂」はどんな気分だったのだろうかと思います。

るグラスとシャンパン、ワインが宝石のごとく輝いています。その宝石箱の真ん中に、日本から連れていった酒を静かに置いて、おもむろにワイングラスに注ぎ、「日本酒で乾杯！」。

万穂、ロンドン・デビューの瞬間でした。

今秋、この酒の英国への出荷が始まります。貴重な国際舞台を経験させてもらった「万穂」が、ロンドンで元気に活躍する姿を願うばかりの私でした。